

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第75期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	東都水産株式会社
【英訳名】	TOHTO SUISAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 久我 勝二
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲6丁目6番2号
【電話番号】	03(6633)1005
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 田中 浩
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区豊洲6丁目6番2号
【電話番号】	03(6633)1005
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 田中 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第74期 第2四半期連結 累計期間	第75期 第2四半期連結 累計期間	第74期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	(百万円)	37,316	44,252	81,113
経常利益	(百万円)	621	1,119	2,021
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	484	895	1,597
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,214	2,069	2,627
純資産額	(百万円)	19,096	22,019	20,347
総資産額	(百万円)	30,656	33,679	31,381
1株当たり四半期(当期)純利 益	(円)	123.22	228.38	406.78
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	62.3	65.4	64.8
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	937	1,256	497
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	5	668	85
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	725	937	1,204
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	7,497	5,934	8,392

回次		第74期 第2四半期連結 会計期間	第75期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	83.30	152.28

- (注) 1. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E SOP)」及び業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大により、当社の業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があり、引き続き注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

a. 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスによる感染症の影響は落ち着きを見せたものの、ウクライナ情勢の激化による原材料及びエネルギー価格の高騰、急激な円安の進行による物価上昇等、景気の先行きは依然不透明な状況が続いております。

水産物卸売市場業界におきましては、高単価商材をメインとして扱う外食・観光関連需要の回復は見られたものの、昨年度から続く同感染症の影響による生活様式の変化、水産資源の減少や魚の回遊水域の変化による漁獲量の減少、海外での需要増加による仕入価格の高止まり、さらには市場外流通の多様化による業態を超えた競争の継続など、引き続き厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか当社グループは、新型コロナウイルス感染症及び原材料価格の高騰等の影響を、最小限にとどめられるよう諸経費全般の見直し等一層の効率化に注力するとともに、引き続き市場環境や消費者ニーズの変化に対応した集荷・販売に努め、仕入先との協働、きめ細かい営業や販売先への協力、グループ会社間の連携、収益率を重視した効率的な取引に注力することにより、経営基盤の強化を図ってまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、消費者の健康意識や食の安全安心への意識が一層高まるとともに、取引先の要望も多様化してきており、これに応えるべく集荷・販売への機動性確保と、消費者の皆様との豊かで魅力的な食生活の創出を第一義に考えた商品提供に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、取扱数量は減少したものの、販売単価の上昇等により、前年同四半期連結累計期間と比べ18.6%増加の44,252百万円となりました。

営業利益は、売上総利益の増加及び販売諸経費の減少等、販売費及び一般管理費の削減に努めたことにより、前年同四半期連結累計期間と比べ70.5%増加の955百万円となりました。

経常利益は、固定資産売却益の計上等により、前年同四半期連結累計期間と比べ80.1%増加の1,119百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期連結累計期間と比べ85.0%増加の895百万円となりました。

b. 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ2,298百万円増加し、33,679百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べ1,214百万円増加し、19,256百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が2,326百万円減少したものの、商品及び製品が1,973百万円、受取手形及び売掛金が1,322百万円増加したことによるものです。固定資産は、前連結会計年度末と比べ1,083百万円増加し、14,422百万円となりました。主な要因は、漁業権が737百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ626百万円増加し、11,660百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末と比べ922百万円増加し、7,193百万円となりました。主な要因は、短期借入金230百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が1,359百万円増加したことによるものです。固定負債は、前連結会計年度末と比べ295百万円減少し、4,466百万円となりました。主な要因は、長期借入金301百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ1,671百万円増加し、22,019百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が498百万円、為替換算調整勘定が1,275百万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、65.4%（前連結会計年度末64.8%）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

水産物卸売事業

売上高につきましては、取扱数量は減少したものの、販売単価の上昇等により、前年同四半期連結累計期間と比べ18.9%増加の40,831百万円となりました。セグメント利益は、売上総利益の増加及び販売諸経費の減少等により、前年同四半期連結累計期間と比べ、234.9%増加の647百万円となりました。

冷蔵倉庫及びその関連事業

売上高につきましては、水産物の製造加工の取扱高の増加等により、前年同四半期連結累計期間と比べ16.9%増加の3,089百万円となりました。セグメント利益は、売上総利益は増加したものの、人件費及び貸倒引当金の繰入等、販売費及び一般管理費が増加したことにより、前年同四半期連結累計期間と比べ、13.1%減少の221百万円となりました。

不動産賃貸事業

売上高につきましては、既存管理物件の稼働率の増加等により、前年同四半期連結累計期間と比べ0.8%増加の331百万円となりました。セグメント利益は、売上総利益が減少したことにより、前年同四半期連結累計期間と比べ、8.7%減少の96百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、売上債権並びに棚卸資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ2,457百万円減少（前年同四半期資金の減少1,500百万円）し、5,934百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果減少した資金は1,256百万円（前年同四半期 資金の減少937百万円）となりました。これは主に売上債権並びに棚卸資産の増加によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果減少した資金は668百万円（前年同四半期 資金の減少5百万円）となりました。これは主に定期預金の預入による支出並びに無形固定資産の取得による支出によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果減少した資金は937百万円（前年同四半期 資金の減少725百万円）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,800,000
計	12,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,026,000	4,026,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株で あります。
計	4,026,000	4,026,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	4,026	-	2,376	-	953

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
合同会社麻生東水ホールディングス	東京都千代田区丸の内3-2-3	1,453	36.54
株式会社ヨンキュウ	愛媛県宇和島市築地町2-318-235	609	15.31
マルハニチロ株式会社	東京都江東区豊洲3-2-20	321	8.09
松岡冷蔵株式会社	東京都港区港南5-3-23	318	8.02
株式会社三陽	福岡県福岡市中央区長浜2-3-6	144	3.63
株式会社海昇	愛媛県宇和島市坂下津甲407-89	126	3.17
株式会社魚力	東京都立川市曙町2-8-3	115	2.91
トリプルフォー投資事業組合	東京都港区虎ノ門3-8-21	93	2.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	92	2.32
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1-8-12	55	1.39
計	-	3,330	83.71

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数92千株及び株式会社日本カストディ銀行(信託E口)の所有株式55千株は信託業務に係る株式です。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 47,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,959,800	39,598	-
単元未満株式	普通株式 19,000	-	-
発行済株式総数	4,026,000	-	-
総株主の議決権	-	39,598	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E S O P)」及び業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(B B T)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式55,300株が含まれております。なお、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2. 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式66株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
東都水産(株)	東京都江東区豊洲6丁目6番2号	47,200	-	47,200	1.17
計		47,200	-	47,200	1.17

(注) 1. 上記のほか、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E S O P)」及び業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(B B T)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式55,300株を、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2. 当第2四半期会計期間末の自己株式数は102,566株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,130	6,803
受取手形及び売掛金	5,810	7,132
商品及び製品	2,998	4,971
仕掛品	4	16
原材料及び貯蔵品	86	94
その他	393	609
貸倒引当金	382	371
流動資産合計	18,041	19,256
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,236	3,183
土地	2,969	2,990
その他(純額)	998	1,087
有形固定資産合計	7,204	7,261
無形固定資産		
漁業権	3,097	3,834
その他	220	214
無形固定資産合計	3,317	4,049
投資その他の資産		
その他	2,979	3,276
貸倒引当金	162	164
投資その他の資産合計	2,817	3,112
固定資産合計	13,339	14,422
資産合計	31,381	33,679
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,403	3,763
短期借入金	2,619	2,389
未払法人税等	280	107
賞与引当金	65	74
株主優待引当金	1	9
その他	900	849
流動負債合計	6,271	7,193
固定負債		
長期借入金	2,060	1,759
退職給付に係る負債	785	766
株式給付引当金	33	30
役員株式給付引当金	20	30
資産除去債務	122	122
その他	1,739	1,756
固定負債合計	4,761	4,466
負債合計	11,033	11,660

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,376	2,376
資本剰余金	1,085	1,085
利益剰余金	16,002	16,500
自己株式	260	260
株主資本合計	19,203	19,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	612	530
繰延ヘッジ損益	0	3
土地再評価差額金	522	522
為替換算調整勘定	38	1,236
退職給付に係る調整累計額	47	31
その他の包括利益累計額合計	1,144	2,317
純資産合計	20,347	22,019
負債純資産合計	31,381	33,679

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
売上高	37,316	44,252
売上原価	34,407	40,985
売上総利益	2,908	3,266
販売費及び一般管理費	2,347	2,311
営業利益	560	955
営業外収益		
受取利息	11	13
受取配当金	45	101
固定資産売却益	9	65
補助金収入	32	0
その他	33	27
営業外収益合計	132	208
営業外費用		
支払利息	11	9
為替差損	56	24
その他	4	11
営業外費用合計	72	45
経常利益	621	1,119
特別利益		
投資有価証券売却益	7	0
特別利益合計	7	0
税金等調整前四半期純利益	628	1,119
法人税、住民税及び事業税	111	177
法人税等調整額	31	46
法人税等合計	143	223
四半期純利益	484	895
親会社株主に帰属する四半期純利益	484	895

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	484	895
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	89	82
繰延ヘッジ損益	10	2
為替換算調整勘定	630	1,275
退職給付に係る調整額	0	16
その他の包括利益合計	730	1,173
四半期包括利益	1,214	2,069
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,214	2,069
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	628	1,119
減価償却費	222	219
貸倒引当金の増減額(は減少)	5	12
賞与引当金の増減額(は減少)	10	9
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	53	19
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	4	9
株式給付引当金の増減額(は減少)	3	1
株主優待引当金の増減額(は減少)	8	8
受取利息及び受取配当金	56	115
支払利息	11	9
投資有価証券売却損益(は益)	7	0
固定資産売却損益(は益)	9	65
補助金収入	32	0
売上債権の増減額(は増加)	742	1,243
棚卸資産の増減額(は増加)	876	1,942
仕入債務の増減額(は減少)	329	1,221
未払消費税等の増減額(は減少)	208	134
その他	155	385
小計	925	1,054
利息及び配当金の受取額	61	115
利息の支払額	21	9
補助金の受取額	36	0
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	89	309
営業活動によるキャッシュ・フロー	937	1,256
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	757	1,059
定期預金の払戻による収入	1,270	635
有形固定資産の売却による収入	-	7
無形固定資産の売却による収入	151	153
有形固定資産の取得による支出	167	144
無形固定資産の取得による支出	562	274
投資有価証券の売却による収入	67	74
投資有価証券の取得による支出	3	18
貸付けによる支出	1	41
貸付金の回収による収入	2	2
その他	4	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	5	668
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	180	50
長期借入れによる収入	-	50
長期借入金の返済による支出	510	531
自己株式の取得による支出	65	0
配当金の支払額	314	391
その他	13	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	725	937
現金及び現金同等物に係る換算差額	168	405
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,500	2,457
現金及び現金同等物の期首残高	8,997	8,392
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,497	5,934

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

1. 株式給付信託(J - E S O P)

当社は株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J - E S O P)」を導入しております。

(1) 取引の概要

一定の要件を満たした従業員に対し当社株式を給付する仕組みで、個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理を行います。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額は除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度86百万円、42千株、当第2四半期連結会計期間85百万円、42千株であります。

2. 株式給付信託(B B T)

当社は取締役(社外取締役を除く。)に対する業績連動型株式報酬制度として「株式給付信託(B B T)」を導入しております。

(1) 取引の概要

当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、取締役に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額は除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度65百万円、12千株、当第2四半期連結会計期間65百万円、12千株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

圧縮記帳

取得価額から直接控除した国庫補助金等による圧縮記帳額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
建物及び構築物	109百万円	109百万円
有形固定資産その他	444	448
無形固定資産その他	1	1
計	555	559

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
従業員給与手当	714百万円	733百万円
賞与引当金繰入額	55	64
退職給付費用	40	22
役員株式給付引当金繰入額	4	9
貸倒引当金繰入額	5	8
株主優待引当金繰入額	8	8
販売諸掛	582	484

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
現金及び預金勘定	8,406百万円	6,803百万円
投資その他の資産の「その他」に計上され ている長期性預金	-	423
預入期間が3か月を超える定期預金	909	1,292
現金及び現金同等物	7,497	5,934

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月16日 定時株主総会	普通株式	318	80	2021年3月31日	2021年6月17日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E S O P)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月22日 定時株主総会	普通株式	397	100	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E S O P)」及び業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(B B T)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)2
	水産物卸売 事業	冷蔵倉庫及 びその関連 事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	34,344	2,642	328	37,316	-	37,316
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27	480	50	557	557	-
計	34,372	3,122	378	37,873	557	37,316
セグメント利益	193	254	105	553	6	560

(注)1. セグメント利益の調整額6百万円は、セグメント間取引に係る棚卸資産の調整額等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)2
	水産物卸売 事業	冷蔵倉庫及 びその関連 事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	40,831	3,089	331	44,252	-	44,252
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	404	57	462	462	-
計	40,831	3,494	388	44,714	462	44,252
セグメント利益	647	221	96	965	9	955

(注)1. セグメント利益の調整額9百万円は、セグメント間取引に係る棚卸資産の調整額等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの主たる事業は「水産物卸売事業」であり、卸売市場において生鮮及び加工水産物の受託及び買付販売を行っており、それに関連又は附帯する事業として「冷蔵倉庫業、水産物の製造加工」及び「不動産の賃貸等の経営」の3つを報告セグメントとしております。また、売上高は、水産物卸売事業につきましては販売内容別に分解し、それ以外の事業は「その他」に含めております。分解した売上高とセグメント売上高との関連は、次のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	水産物卸売事業	冷蔵倉庫及びその関連事業	不動産賃貸事業	合計
売上高				
受託品売上高	565	-	-	565
買付品売上高	33,779	-	-	33,779
その他	-	2,642	328	2,971
顧客との契約から生じる収益	34,344	2,642	328	37,316
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	34,344	2,642	328	37,316

(注) 売上高「その他」には、顧客との契約から生じる収益のうち、収益認識に関する会計基準の適用範囲に含まれない取引に係る売上高を含めております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	水産物卸売事業	冷蔵倉庫及びその関連事業	不動産賃貸事業	合計
売上高				
受託品売上高	689	-	-	689
買付品売上高	40,142	-	-	40,142
その他	-	3,089	331	3,420
顧客との契約から生じる収益	40,831	3,089	331	44,252
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	40,831	3,089	331	44,252

(注) 売上高「その他」には、顧客との契約から生じる収益のうち、収益認識に関する会計基準の適用範囲に含まれない取引に係る売上高を含めております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	123円22銭	228円38銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	484	895
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	484	895
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,931	3,923

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-E S O P)」及び業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(B B T)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式を「1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間56千株、当第2四半期連結累計期間55千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月14日

東都水産株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福原 正三

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鯉沼 里枝

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東都水産株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東都水産株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。